

＊ ニュースレター ＊

2007年 Summer Vol.14 (2007年1月発行) より



[ごあいさつ 新年を迎えて](#)

日本歯科審美学会 副会長 齊木好太郎

[第18回日本歯科審美学会学術大会のご案内](#)

大会長 寺田善博

[第17回日本歯科審美学会学術大会開催報告](#)

大会長 川和忠治

[第30回アメリカ歯科審美学会\(ASDA\)](#)

[国際大会に出席して](#)

桑田先生、松尾先生、寺川先生がSmigel Prizeを受賞
東京都開業 椿 智之

[編集委員会報告](#)

編集委員会 委員長 寺田善博

[会則検討委員会報告](#)

会則検討委員会 委員長 長岡英一

[広報委員会報告](#)

広報委員会 委員長 加藤喜郎

[認定医審議会・認定士審議会報告](#)

認定医審議会・認定士審議会
委員長

[セミナー委員会報告](#)

セミナー委員会 委員長 千田 彰

[ホワイトニングコーディネーター報告](#)

ホワイトニングコーディネーター
委員会 副委員長 佐藤 孝

[総務報告](#)

総務担当 常任理事 福島正義

[新刊書の紹介](#)

[新製品の紹介](#)

常任理事 田島菜穂子

[国際渉外委員会報告](#)

国際渉外委員会 委員長 中村隆志

[IFEDソウル大会](#)

| [Back](#) |



2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

ごあいさつ



新年を迎えて

日本歯科審美学会 副会長 齊木好太郎

会員の皆様におかれましては輝かしい新年を迎え、新たな気持ちで希望に満ちたスタートをされていることと存じます。

日本歯科審美学会は、歯科医師を始めとして歯科技工士、歯科衛生士、関係研究者、関係産業者等多くの会員の方々の活躍により20年を迎え確実に発展しており、この発展とは一般的に確かな継続と良い方向への変化が必要とされています。

確かな継続という点では、歯科審美学の基礎並びに臨床に関する研究等を学会誌「歯科審美」の発行、学術大会、セミナーの開催等を通じて審美歯科の普及を図っているところであります。良い方向への変化としましては、最近では認定士制度、ホワイトニングコーディネーター制度など他学会にはない制度を設け、広くコ・デンタルスタッフにも活躍の場が開かれている点です。

歯科医療の発展を振り返れば、疾病の治療という治療医療、形態再現とともに機能の回復をおこなう修復治療へ、そしてそのようなことにならないようにと予防治療へと変化してきました。一方、社会のニーズも健康志向が高まり、いかに本来の生活と人生(QOL)や日常生活活動(ADL)を向上させ快活で健康に美しく幸福に生きたいとの要望が高まってきています。

本学会の「教授要綱」総論の中で、1. 歯科審美の概念 2. 科審美の歴史 3. 歯科審美と健康 4. 歯科審美と心の4項目が歯科医学における歯科審美学として位置づけられており、歯科審美がどのように健康に貢献するか、また、心理を理解し歯科審美が心理状態に及ぼす影響の重要性を知ることの必要性が謳われています。

このような点を踏まえると、歯科審美学のより確かな充実、そして社会への実践を押し進める役割はきわめて重要です。まさに社会のための国民に喜ばれる優れた質の高い歯科医療を提供するべく、歯科審美の普及に会員一同新たな気持ちで努力したいものです。

2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

第18回日本歯科審美学会学術大会のご案内

大会長 寺田善博

第18回日本歯科審美学会学術大会を平成19年11月17日（土）、18日（日）に福岡市の九州大学医学部百年講堂で開催する予定です。この学術大会は日本接着歯学会と合同で開催されることになっております。準備委員会のメンバーとして、大会長の寺田、準備委員長の沖本助教授、審美担当の福田先生、接着担当の永留先生そして医局長の諸井先生の5名で大枠の企画を進めています。メインテーマは、「接着と審美」で、接着と審美に関するシンポジウムと市民フォーラムを企画しています。実行委員長を北九州市でご開業の下川公一先生にお願いし、臨床家にとって魅力ある学術大会になるようにしたいと思っております。さらに、日本歯科審美学会および日本接着歯学会それぞれの学術大会としての位置づけもありますので、両学会の役員会等にご相談しながら企画を進めております。これからいろいろな先生方にご相談しながら演者等の選定も進めていかなければなりません。皆様方の絶大なご支援をお願いする次第です。また、ひとりでも多くの先生方に参加して頂きますよう、お願い申し上げます。



大会準備委員会 担当委員



2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

第17回日本歯科審美学会学術大会開催報告

大会長 川和忠治

第17回日本歯科審美学会学術大会が10月17日、18日の両日、東京のJR大井町駅に隣接しております「きゅりあん」(品川区総合区民会館)で開催されました。本大会には640名という大勢の先生方にご参加頂き、さらには学会本部、口腔保健協会の方々、企業の方々などの大変力強いご協力を得られ、滞りなく学会を開催できたことをまずもって御礼申し上げる次第です。

また、横浜で同時開催されているデンタルショーがあるにもかかわらず特別講演2題、基調講演、教育講演3題、招待講演3題、臨床、技工師、衛生士セミナー、更には一般演題も29題と多数の演者の先生方にご講演頂き心より感謝いたします。このような学術大会が執り行えたことは田上順次学会長をはじめとする学会執行部の先生方が常に審美歯科の重要性を学会員の先生方のみならず、一般の歯科医師の先生方に対しても広く啓蒙されている賜物と考えても過言ではありません。特に、最終日の臨床セミナーは閉会予定時間が大幅に延びたにもかかわらず座長の加藤喜郎教授の素晴らしい司会のもと、聴講する先生方も時間を忘れるようなセッションができました。



セミナー



口演発表

一方、来年のIFED大会に向けて韓国よりDr.Koが来日され、日本の先生方とは違った興味深い講演をされておりました。審美歯科学会の韓流ブームになるのではないのでしょうか。また、第18回日本歯科審美学会学術大会は九州大学の寺田善博教授の主催で接着歯学会との合同学術大会となり、これも大変楽しみにしております。

行き届かないところ、ご無礼の数々をこの書面で改めてお詫びを申し上げますとともに今後の日本歯科審美学会の発展をお祈りいたしまして大会後記といたします。



商社展示



ポスター発表



シンポジウム



大会委員長と準備委員



2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

第30回アメリカ歯科審美学会(ASDA)国際大会に出席して

桑田先生、松尾先生、寺川先生がSmigel Prizeを受賞

東京都開業 椿 智之

世界で審美歯科の発展に貢献した歯科医師に贈られるNewYork大学のSmigel Prizeを日本の桑田正博先生、松尾通先生、寺川國秀先生の3名の先生方が受賞された。

2006年10月2日～5日、米国のGeorgia州Savannahにおいてアメリカ審美歯科学会(ASDA)の30周年記念大会が開催された。

学会は約300名の出席の中、まず会長のDr.Irwin Smigelの30周年の挨拶に続き、審美的に失敗したインプラントの再利用術など最新審美治療の症例報告、Dr.Robert Margeasによる前歯部インプラントの審美的治療法の報告が行われた。この日はランチタイムを利用して、各々のランチテーブルでテーブルクリニックも開催された。午後からは6つのハンズオンコースから自分の好きなテーマを選んで出席するようになっていた。先日来日したDr.George Freedmanによる最新審美歯科器材の使い方のデモやダイレクトボンディング、セラミックレストレーションのハンズオンが行われた。その夜にはウェルカム・パーティーがあり、新しくメンバーになったドクターがDr.Smigelより紹介された。新しく認定されたメンバーにとっては晴れの舞台であり、ひとりひとりからスピーチも行われ、皆から暖かく迎えられた。

2日目は朝からNew York大学の人気講師、Dr.Lally Rosentalが審美歯科の総合的アプローチ法について、その後二人の先生方が咬合に関してレクチャーを行った。この間に別の部屋でコデンタルスタッフ向けのセミナーが開催されていた。

3日目には審美歯科のバイブル、RealityのPresident Dr.Michael Millerによる最新審美歯科器材の検証報告が行われた。その後、コーヒブレイクを挟んで、Dr.Robert Loweが歯科用レーザーの審美歯科への応用について講演を行った。午後からは異なる6種類のハンズオンセミナーが行われた。そしてこの日の学会最終日、毎年恒例のディナー・パーティーの席上でSmigel Prizeの発表と授与式が行われた。Smigel PrizeはDr.Smigelの当時の患者であった世界的なデザイナー、Kalvin KleinがDr.Smigelの治療に感動し、審美歯科の発展に役立てて欲しいと自分のポケットマネーから\$100,000を寄付したことに始まる。Dr.Smigelはこのお金に自分の資金を足し、New York大学に約1億円のSmigel基金を設立、国際的に審美歯科の発展に貢献した歯科医師にSmigel Prizeを贈ることにした。2002年始まったこのSmigel Prizeの第1回の受賞者は今年10月にも来日し、講演を行った審美歯科界の巨匠、Dr.Ronald Goldsteinであった。その後第2回はCRA News Letterの主催者、Dr.Gordon Christensen、第3回はDirect Bondingの祖、CosmedentのDr.William Mopperなど世界中の審美歯科界で著名な歯科医師が受賞してきたこの賞に桑田正博先生、松尾通先生、寺川國秀先生の3名の先生が東洋人として始めて受賞したのである。

Dr.Smigelとの出会いは、審美歯科との出会いでもあった。ASDA発祥の30年前といえばアメリ

カでもまだ審美歯科がほとんど行われていなかった時代である。まず桑田先生がDr.Smigelと知り合い、1982年に初めてASDAに参加、その後、桑田先生の誘いで1984年に松尾先生が参加、またさらに松尾先生の紹介で寺川先生が参加した。ASDAの活動や審美歯科の胎動に感銘を受けたこの3名が中心となって1988年に日本歯科審美学会が誕生したのである。桑田先生は常々「人は出会うべきときに会う」と話されているが、まさにDr.Smigelとの出会いが日本の審美歯科の夜明けとなったのである。

授賞式、司会者の紹介は「The best dentist of the world！」。日本から参加した18名の先生はもとより、会場の全員がスタンディング・オベーションで祝った。世界中から歯科医師が参加しているこの学会で、同じ日本の歯科医師として最も誇りに思う瞬間だった。



ディナー・パーティにおけるスナップ写真



受賞の3先生。左より桑田、松尾、一人おいて寺川の各先生。

2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

編集委員会報告

編集委員会 委員長 寺田善博

平成18・19年度編集委員会の報告をさせていただきます。寺田善博（九大）が編集委員長をお引き受けしてから第2回目の編集委員会を平成18年11月28日（火）に開催致しました。この委員会では、平成19年3月20日発行予定の第19巻2号の編集作業を行いました。第19巻2号には、10月に昭和大学の主管で開催された歯科審美学会で発表された内容の原稿を主として掲載致します。19巻1号から「審美歯科関連の外来紹介」の掲載を始めましたが、19巻2号でも引き続き掲載する予定です。また、第15回学術大会から、講演論文の提出義務づけを廃止し、口演・ポスター発表の演者に事後抄録の提出を義務づけることになりましたので、事後抄録を掲載致します。この変更により自動的に講演論文が集まらないことになりましたので、紙面充実について検討が進められてきました。論文の区分として、原著論文、臨床論文（症例報告、各種術式、臨床のヒントなど）、総説、特集、誌上セミナーなどを取り上げて、紙面充実を図ることに致しました。具体的には20巻から特集記事の掲載を始めることに致しました。

今後とも委員会としては紙面充実に努力したいと思いますので、皆様のご協力をお願いする次第です。



左：写真1 第2回編集会議出席メンバー

右：写真2 機関紙「歯科審美」

会則検討委員会報告

会則検討委員会 委員長 長岡英一

会則検討委員会では、これまでの会則には会長の選出方法が明記されていなかったため、初仕事として、会長の選出規程を中心に検討し、第4章（役員）の第13条、第1項を主とする改定案を2案作成し、常任理事会に上程しました。その内、現規程を大幅に変更しなくても目的を達成できる案が9月の常任理事会で採択されました。第1項は、旧規程の「会長は、評議員の中から理事会で推薦し、評議員会の議を経て、総会で承認を得るものとする。」から、新規程では「会長、副会長は理事の互選により選出し、評議員会の議を経て、総会で承認を得る。」となり、新規程は10月13日の理事会、評議員会、総会にて承認されました。

この会則改定により、次期会長・副会長候補者が理事会の互選によって選出されることになり、これまで、次期会長候補者が自身執行することになる予算案および事業案に積極的に関与できなかったことや、役員の承認が会長就任の約半年後の総会になることの矛盾が解消されることになりました。すなわち、次期会長候補者が新役員人事案を常任理事会に提出し、次年度の事業および予算案の検討に臨むことが出来るとともに、評議員会・総会において、次年度の会長、副会長、常任理事、理事、監事、顧問を一括承認する運びとなります。

このような会則改定は、日本歯科医学会の分科会加入までの道程として必要なことと考えます。分科会の中で法人化を行った学会では、各種委員会の規程も作成されています。今後も、委員会では、順次、会則の見直しを図っていきますので、会員諸兄弟のご協力をお願いいたします。

ホワイトニングコーディネーター講習会の内容案内

講習内容： ホワイトニングの基礎・実践・カウンセリング・こんなときどう答える？

講師： 東光照夫、椿 智之、大森かおる、田島菜穂子、古谷彰伸、星野睦代、永瀬佳奈、大槻昌幸、佐藤 孝、久光 久

認定講習会参加費： 5,000円 認定資格審査受験料： 3,000円

合格後の認定登録料： 6,000円

問い合わせ・申込先： (財) 口腔保健協会 TEL:03-3947-8761 FAX : 03-3947-8873

2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

広報委員会報告

広報委員会 委員長 加藤喜郎

平成18年度第2回広報委員会は、去る12月8日（金）14:00～16:00、八重洲倶楽部 第10会議室で開催された（写真）。

会議内容の要約を下記に示す。

1) 先に発刊したニュースレターVol.13 2006 Summerについての反省2500部印刷し会員に配布したが、表紙のデザイン・掲載内容等はおおむね好評であった。今後もこの基本路線を継続しながら、会員に情報提供を行っていくことが確認された。

2) ニュースレターVol.14 2006 Winterの企画構成

本学会副会長 斉木好太郎先生から巻頭言を、第18回学際大会案内、第17回学術大会開催報告、各種委員会報告、将来の学術大会予定等をはじめ今後予定しているセミナー等の各種学術行事内容を盛り込むことで意見がまとまった。

また本号から「編集後記」欄を設けることとし、2007年1月中旬に発行することで了解された。

3) ホームページの管理運営

企画構成全体の見直し、古くなった内容の訂正、新規内容の追加、ホワイトニングコーディネーターに関する情報の掲載等を至急行うことになった。なお、フルハウス・ホームページ担当者が岩脇氏に変更となった。

4) 一般社会への広報活動

本学会および審美歯科治療の広報活動方法について、具体的方策について意見交換を行った。



第2回広報委員会出席メンバー

2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

認定医審議会・認定士審議会 報告

認定医審議会・認定士審議会
委員長 末瀬一彦

平素は「認定医審議会・認定士審議会」に対しまして深いご理解と温かいご協力を賜りまして厚く感謝申し上げます。近年の「審美歯科」に対する国民の関心は高く、マスコミなどを通じて広く社会にアピールされているのが現状です。一方では、「審美歯科」に関する診療器材や材料などの目覚ましい革新的進歩があり、歯科医療にあつてますます専門分野の位置づけが必要になってきています。まさに、「日本歯科審美学会」におきましては、専門分野を实践すべく核心的役割を果たさなければなりません。先輩諸氏のご尽力によりまして「学会認定医」制度が立ち上げられ、最近ではコ・デンタルスタッフの「認定士制度」も確立されました。これまでに認定医を取得されておられる先生は76名、認定士を取得されておられる方は25名（歯科技工士18名、歯科衛生士7名）です。学会会員数2,000名からすれば、まだまだ少ない数字です。現在、会員数の約6割の方が「認定医」あるいは「認定士」の申請資格保持者です。日本の多くの学会におきまして「認定医」あるいは「専門医」が花盛りですが、「審美歯科学」に特化した「認定制度」を有するのは本学会だけです。「歯科審美」を国民に広く、わかりやすくアピールし、EBMに基づいた審美歯科治療を实践し、さらに、「認定医」と「認定士」が連携した高度な治療を实践できるのも本学会の大きな役割です。日進月歩審美修復における新しい素材が開発され、技術が確立されていくなかで、立ち遅れないよう日々の臨床に精進するためにも「認定医」「認定士」のネットワークを強め、互いに情報交換を行い、研鑽していこうではありませんか。

昨年度より、「認定医」の先生方には逐次更新手続きを行っております。更新時の先生方には事前にご連絡させていただいておりますが、お忘れないようにお願いします。診療室内に認定期間切れの「認定証」の貼付はしていませんか。

認定医審議会・認定士審議会におきましては、会員の皆様方に申請していただきやすい規定に改善、整理しております。申請書類や規定につきましては学会ホームページからダウンロードできるようにし、申請時の具体的例も記載しておりますので、ぜひともご活用いただきますようお願い申し上げます。

セミナー委員会報告

セミナー委員会 委員長 千田 彰

平成18年度第2回セミナー（大阪）開催のお知らせ

日々の臨床に審美歯科を！

～きれいな歯に、きれいな歯肉を～

セミナー委員会では、皆様のご理解とご協力のもとで「日々の臨床に審美歯科を！」という総合テーマを掲げてセミナーを企画、開催しています。今回は、大阪地区でとくに審美性を取り上げた歯周治療、あるいは歯周治療の中の審美歯科を中心にしたセミナーを開催することになりました。詳細を以下に紹介しますので、会員、非会員を問わず、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の多くの方々にぜひご出席頂きたいと思ひます。また大阪地区の歯科学学生、歯科衛生士や歯科技工士の学生の皆様には、参加費無料という特典を設けましたので、ぜひ多数出席して頂き、日本の最高レベルの先生方の講演を聴いて頂きたいと思ひます。

開催日時： 平成19年2月18日（日）9:00から17:00まで

開催場所： 新梅田研修センター（大阪市福島区福島 6—22—20、JR大阪駅近く）

講師： 歯周外科・若林 勝夫（東京都開業）

「審美的な歯周組織を目指した歯周外科的アプローチ」

歯科衛生士・村中順子（若林歯科歯周病研究所）

「審美的な口腔を主訴とした若年層の重症な歯周炎に対する歯科衛生士の役割」

歯科衛生士・塚越芳子（ナグモ歯科クワバラクリニック）

「審美歯科初期治療における歯科衛生士の役割」

歯科技工士・十河厚志（デンテックインターナショナル株）

「インプランと技工における周囲軟組織への配慮」

再生療法・申 基喆（明海大学歯学部）

「審美領域における歯周組織再生療法の要点」

インプラント・林 揚春（東京都開業）

参加費： 学会員 ¥8,000、非会員歯科医師 ¥10,000

研修医・歯科衛生士、歯科技工士 ¥3,000、学生無料

申し込み・問い合わせ：TEL 03 (3947) 8761 FAX 03 (3947) 8873

Eメール：gakkai2@kokuhoken.or.jp

2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

ホワイトニングコーディネーター報告

ーホワイトニングコーディネーター制度がいよいよスタートー

ホワイトニングコーディネーター委員会 副委員長 佐藤 孝

前回のニュースレターですすでにご案内のとおり、いよいよホワイトニングコーディネーター制度がスタートいたします。

第1回の講習会および認定試験は、平成19年2月11日(日・祝)に、東京医科歯科大学歯学部特別講堂で開催されることになりました。久光 久委員長を中心に、委員の先生方が精力的に取り組み、委員会のミーティングを何度も重ねて開催準備を整え、いよいよ開始できる状態にこぎつけました。

委員会では、より多くの歯科衛生士の方々に、認定資格を取得していただけるように、設営準備や認定試験の問題、あるいは使用するテキストの製作について、夜遅くまで活発な意見が交わされました。内容については、商業誌3誌(デンタルハイジーン、歯科衛生士、日本歯科評論)にすでに掲載され、その結果多数の申込みが殺到しており、歯科衛生士さんにとって大変に関心が高いことが感じられます。委員会では、定員オーバーしてしまった場合の対策を検討しなければならないという、嬉しい悲鳴が聞こえております。

この制度は、日本歯科審美学会の会員の歯科衛生士さんだけでなく、非会員の方々も対象としており、広くホワイトニングの正しい情報と普及を目的としております。是非とも会員の先生方に勤務する歯科衛生士の方や、お知り合いの歯科衛生士の方へ、お声を掛けていただきたく思います。

また、今回非会員の歯科衛生士の方が日本歯科審美学会に入会されますと、認定登録料についての恩典を御利用されることが出来ます。なお、講習会・認定試験の申込み・手続きについての詳細は、別刷の案内書をご参照下さい。多くの歯科衛生士さんの御参加をお待ちしております。

<開催日程>

- 第1回 平成19年 2月11日(日・祝)
昭和大旗の台校舎(東京) 定員500名
- 第2回 平成19年 6月10日(日)
大阪大学中之島センター(大阪) 定員150名
- 第3回 平成19年10月14日(日)
九州大学歯学部講義室(福岡) 定員120名

総務報告

年会費の改定について

総務担当 常任理事 福島正義

平成18年10月14日に開催されました日本歯科審美学会総会にて、年会費の改定が下記の通り、承認されました。平成19年度より、歯科医師の会費の区分を廃止して12,000円に統一されます。改定理由は歯科医師の所属の移動により、会員種別の把握が困難であるためです。

何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

記

現 行

- A 12,000円 (開業医、勤務医、研究所勤務者)
- B 9,000円 (大学・各種学校・病院等の勤務医スタッフ)
- C 6,000円 (大学・各種学校・病院等のコ・デンタルスタッフ)

↓

平成19年度より

- A 12,000円 (歯科技師)
- B 6,000円 (歯科技工士・歯科衛生士・その他)

※平成19年4月1日より適用する。



岩原スキー場と関越高速道



越後中里スキー場（加藤喜郎撮る）

| [Back](#) |

2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

新刊書の紹介

Muscle Wins!の矯正歯科臨床

呼吸および舌・咀嚼筋の機能を生かした治療 近藤悦子／著

■ A4判／288頁／オールカラー ■ 定価21,000円 (本体20,000円＋税5%)

ISBN4-263-44226-1 ■ 医歯薬出版株式会社

●強い矯正力や装置のみに頼らないで、Muscle Wins!の理念（筋肉は骨を制する）を基に、light force, low frictionの矯正力とブラケットを使用し、患者さんの機能を最大限に生かす治療を長年取り組んできた著者の多数の症例から33症例をピックアップし、その臨床コンセプトとテクニックをわかりやすく提示した画期的な一冊！

<イリノイ州立大学シカゴ校歯学部矯正学教室臨床教授T.M.Grabberの推薦の言葉>

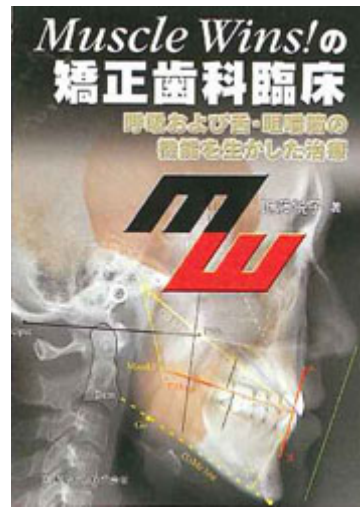
近藤悦子先生によるこの素晴らしい本は、先生がずば抜けた臨床医であり卓越した結果を出しておられることを示しているだけではありません。

解剖学と生理学の基本法則をおさえ、歯、顎の最終的な位置や顔面の軟組織の構造的調和に呼吸が及ぼす影響を認識することによって、このような見事な成果が得られることを示しているのです。

筋・神経系の力に脅かされることなく重度の不正咬合を成功裏に治療できること、顎外科手術も舌縮小術も行わずに素晴らしい結果が達成できること、その結果、劇的な審美性の改善とともに咬合の長期安定が得られることが実際の症例を通して示されています。この本はまさにその証拠です！

一連のX線写真などによりきわめて念入りに追跡した、ほかに類を見ない見事な長期記録は、この本を矯正技術の最高傑作かつ芸術作品に仕立てています。「装置に頼るのではなく、装置をいかに、いつ、どのような理由で、どれだけの期間使用するかであり、機能的要因と環境的要因を継続的に診断評価し、すべての組織系の最適な調和を目指すことである！」との金言を実証しているのです。

この本は矯正歯科医のみならず、歯科臨床に携わる歯科医療者一人ひとりの文庫に加えるべき必須の書です。



著者：近藤悦子先生と、著書：MWの矯正歯科臨床

| [Back](#) |

新製品の紹介

常任理事 田島菜穂子

「サプリもプラチナの時代」「白金ナノコロイド配合、プラチナウォーター」「ナノケア・ヘアドライヤー」と、世の中は今や化粧品から家電、飲料水に至るまで、プラチナやナノテクノロジーの技術がブームとなり始めています。1ナノメートルは10億分の1メートル。気の遠くなるようなきめ細かな粒子の浸透により世界が広がってきました。

審美歯科の分野においても光重合レジンや研磨剤、洗口剤などナノ粒子が活躍しています。その中で私たち歯科衛生士にとって身近な商品として、PMTC時の研磨剤「リナメル」と、外科やホワイトニング施術後に使用する「プラチナ・ナノテクト」をご紹介します。

PMTC時に仕上げ研磨としてリナメルをラバーカップにつけ、ゆっくりと歯面研磨をしていきます。ステインの再沈着が軽減されるだけでなく、歯面がツルツルになり従来の研磨剤以上に輝きが出てきます。患者さんにとってもより輝きのある仕上げは嬉しいものです。またGCの「MIペースト」も同等の輝きを得ることができます。

洗口剤の「プラチナ・ナノテクト」は口腔内の消炎に役立ちます。殺菌作用はありませんが、炎症の一因といわれる口腔内に発生した活性酸素を除去することで、外科やホワイトニングの施術後のケアに効果があります。施術後に1分位口腔内で「ゆすぎ吐き捨てる」ことで、口腔粘膜が落ち着き、傷の痛みが軽減されます。

私たち歯科界でもナノテクノロジーが活かされ、臨床の中で応用されていることを積極的に患者さんへ伝えて生きたいものです。



左：プラチナ・ナノテクト（GC）

中央：MIペースト（GC）

右：リナメル（オーラルケア）

2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

国際渉外委員会報告

国際渉外委員会 委員長 中村隆志

本年度より、国際渉外委員長を拝命した中村（阪大）です。

2006年10月に東京で開催された平成18年度の第17回学術大会において、韓国のDr.Ko (International Federation of Esthetic Dentistry、IFED会長) に特別講演をしていただきました。この講演でも紹介されたように、2007年の5月4日から6日にかけてソウルで第5回IFED学術大会が開催されます。ここでは、審美の分野において国際的に著名な演者が多数講演を行います。本学会からも田上会長、桑田監事、千田常任理事が招待演者として講演を行う予定であり、日本の審美学会の会員も数多く参加いただけることを願っております。詳細はホームページ (www.2007ifed.org) で確認いただければと思います。また、Dr.Koが講演において、日本と韓国の審美学会の交流を進め姉妹関係の協定を結びたいとの希望を述べられました。ともに会員数が多く、アジア歯科審美学会でも中心的な役割を果たす両学会の協力はかせないものであり、姉妹関係についても積極的に進めていく予定です。本年の審美学会学術大会（博多、寺田大会長）においても韓国の審美学会のゲストに講演をしていただく予定です。

アジア歯科審美学会は役員の変更があり、Dr.Phua（シンガポール）からDr.Dharma（インドネシア）に会長が代わりました。次回の第10回大会は、Dr.Dharma会長のもと2008年5月にバリで開催予定です。こちらもバリのリゾートで学会が行われる予定ですので、日本の審美学会からも多数の参加をいただきたいと思いますと考えております。



アジア歯科審美学会のDr.Phua前会長（左）とDr.Dharma現会長（右）。シンガポールで開催された第9回大会にて。



2007年 Winter Vol.14 (2007年1月発行) より

IFEDソウル大会

IFEDソウル大会 (2007年5月4-6日)
ポスターセッション演題募集のお知らせ

IFEDのソウル大会では、日本歯科審美学会の会員よりの一般演題 (ポスター発表、180cm×90cm) を募集しております。今回は、地理的にも近いソウルでの開催です。この機会に、多数の会員の方々が参加されることを願っております。

演題や抄録の締切は、2007年2月20日です。提出先は現地組織委員会 (mskim@koconex.com) あてにメールでお願いします。抄録作成については下記の内容を参照してください。

The 5th World Congress of IFED
May 4-6, Seoul, Korea
Abstract Form

Deadline for submission: Feb 20th 2007

»Please fill out or check the appropriate items below.

Presentation Format			
<input type="checkbox"/> Poster (90cm wide × 180cm high)			
* Notice: IFED provides one (1) poster board - 95cm wide × 250cm high for each presenter. Pushpins cannot be used on this board. Please prepare your own adhesives.			
Author			
First Name		Last Name	
Include the name of institution			
Mailing Address			
Country		E-mail	
Phone		Fax	

Abstract Form Guidelines

1. Abstracts must be written in English and typed within the frame in the abstract form provided.
2. Abstracts should be typed in 10 or equivalent, using single spacing. Times New Roman is recommended as the typeface.
3. In the title, capitalize the first letter of all nouns, verbs, and adjectives, and type all articles and preparations in lower case. The title should be concise, but contain sufficient details to allow the nature of study to be clearly identified.
4. Place an asterisk (*) only after the name of the author presenting the poster.
5. Do not leave empty lines between Title, Authors' Names and Affiliation.
6. Leave empty line between the affiliation and body. Begin the body on a new line without indentation. The body of abstract must be organized in the following sequence; Objective(s), Methodology, Results, Discussion and Conclusion(s).

Sample Abstract

Interdisciplinary Approach to Establish Esthetics of Anterior Dentition in Ectodermal Dysplasia Patient.
J.H.KIM*, W.LEE,¹ Y.K.HOE² *Dept. of Orthodontics, Uijongbu St. Mary's Hospital, The Catholic University of Korea, Korea. ¹Dept. of Maxillofacial Surgery, Uijongbu St. Mary's Hospital, The Catholic University of Korea, Korea. ²Dept. of Prosthodontics, Boston Dental Clinic, Korea.

Establishing the facial esthetics of ectodermal dysplasia patient is one of the difficult

Instructions for submission

1. Make sure to fill in all requested information on the Abstract Form.
2. Online submissions must be made by **Feb.20th 2007**
3. Abstracts sent by fax or mail cannot be accepted.
4. All abstract become the property of IFED. Submission of an abstract form represents permission to duplicate, publish, and disseminate the attached abstract
5. Please address any questions to the following address:
 Congress Secretariat
 SL, Gangnam P.O.Box 305, Seoul 135-603 Korea
 Tel: 82-2-3476-7723
 E-mail: mskim@koconex.com



これからの大会予定

学会回数	開催年月日 (元号)	会場	大会長(所属)	メインテーマ
学会 第18回	2007.11.17-18 (平成19)	九州大学医学部百年講堂・同窓会館	寺田善博 (九州大学・咀嚼機能制御学)	接着と審美 Adhesion & Esthetics (第26回日本接着歯学会と合同学術大会)
学会 第19回	2008.11.2-3 (平成20)	日本歯科大学新潟生命歯学部講堂・アイヴィホール	加藤喜郎 (日本歯科大学新潟生命歯学部・歯科保存学第2講座)	包括的審美で微笑を(仮) Super Smile with Esthetic Harmony
2007 IFED The 5th World Congress	2007.5.4-6 (平成19)	ソウル COEX (Convention & Exhibition Center)	Dr. Seok-Hoon KO President, IFED (2006-2007)	Global Esthetic Harmony

ニュースレターVol.14をお届けしました。情報化時代として多種多様なマスメディアが世の中に溢れています。なかでもインターネットは非常に便利な情報伝達システムであり、日常生活で重要な役割を果たしていることはいまでもありません。しかし、マスメディアの発達により溢れかえった情報の中から重要なものを短時間でキャッチすることが、かえって困難になっているのではないのでしょうか。その点、このニュースレターはとても読みやすく、本学会のトピックスや学術大会の報告・案内そして各種委員会報告など会員の皆様にとって役立つ情報をコンパクトにまとめております。

これからも広報委員会一同、ニュースレターの充実に努めて参りますので、掲載してほしい企画などご意見がございましたら広報委員会宛にご連絡ください。これからもよろしくお願い申し上げます。

(広報委員会 幹事 新海航一)

| [Back](#) |